

【暗証聖句】「神の御心を行って約束されたものを受けるためには、忍耐が必要なのです」ヘブライ人への手紙 10:36

【今週のポイント】

今週の学びは初代教会のユダヤ人たちが置かされていた状況を通して、私達の信仰の歩みについて考えます。

【日・輝かしい始まり】

ヘブル 2:3、4「…この救いは、主が最初に語られ、それを聞いた人々によってわたしたちに確かなものとして示され、更に神もまた、しるし、不思議な業、さまざまな奇跡、聖霊の賜物を御心に従って分け与えて、証ししておられます。」

この手紙がだれによって書かれたのかはわかりません。通常の手紙ですと、手紙の冒頭のところに、だれによって書き送られたのが明記されていますが、この手紙にはそれがありません。おそらくパウロによって書かれたのだらうと考えられますが、はっきりしたことはわかりません。誰が書いたにせよ、聖霊を通して書かれた神からの手紙であることは確かです。

では受取人はだれでしょうか。この手紙のタイトルを見ると「ヘブル人への手紙」とあるので、これはユダヤ人クリスチャンに宛てて書かれた手紙であることがわかります。いったいなぜ書かれたのでしょうか？彼らはユダヤ教からキリスト教に回心した人たちでした。そこには相当の迫害や困難があったであろうということは容易に想像することができます。そうした苦難や困難に遭うことで、中には過去の生活に逆戻りする人たちもいたのです。そこで、そうした人々を励ますために、そして、この信仰にしっかりとどまっているためにこの手紙が書かれました。そうした人々にとって、いったい何が励ましになったのでしょうか。それは主イエス・キリストご自身です。キリストがどのような方なのかを知り、この方をしっかりと見つめることが、そうした困難を乗り越える力となったのです。それゆえ、この手紙の著者はこう勧めるのです。「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから、目を離さないようにしなさい。」(ヘブル 12:2)。これは、私たちにも言えることではないでしょうか。

ヘブル 2章3節を見ると、「この救いは、主が最初に語られ、それを聞いた人々によってわたしたちに確かなものとして示され」とありますので、手紙を受けた取っユダヤ人たちは直接イエス様から教えを聞いた人たちではなく、伝道者たちによってイエス様の教えを伝えき、信仰に入った人たちであることがわかります。また単に言葉だけでなく、不思議な業や様々な奇跡、聖霊の賜物などを通して主の栄光を体験してきた人たちであることがわかります。初代教会の上に聖霊が力強く働き、悪の勢力から人々を解放していった様子がわかります。

【月・葛藤】

初代教会の人たちは、クリスチャンになることで地域の人たちとの間に争いが生じるようになりました。それは考え方や価値観が大きく異なるようになったからです。その結果、あざけられたり、苦しめられたり、見世物とされたりしました。また獄に捕えられた人たちもいました。そのことについてヘブル 10:32、33に次のように書かれています。

「あなたがたは、光に照らされた後、苦しい大きな戦いによく耐えた初めのころのことを、思い出してください。あざけられ、苦しめられて、見せ物にされたこともあり、このような目に遭った人たちの仲間となったこともありました。実際、捕らえられた人たちと苦しみを共にしたし、また、自分をもっとすばらしい、いつまでも残るものを持っていると知っているので、財産を奪われても、喜んで耐え忍んだのです。」ヘブル 10:32～33

このような状況の中でクリスチャンたちはどうすべきか、モーセを通して次のように教えられています。

「信仰によって、モーセは成人したとき、ファラオの王女の子と呼ばれることを拒んで、はかない罪の楽しみにふけるよりは、神の民と共に虐待される方を選び、キリストのゆえに受けるあざけりをエジプトの財宝よりまさる富と考えました。与えられる報いに目を向けていたからです。」ヘブライ人への手紙 11:24～26

私達はいつもどこに目を向けているでしょうか。この世の富や栄光でしょうか。それとも神様がくださる天の富と栄光でしょうか。それにより生き方も大きく変わります。イエス様は「私達の宝のあるところには、心もある」(マタイ 6:21)と言われましたが、主は私達の心をいつも見ておられます。天に宝を蓄える生き方を祈り求めていきたいものです。また、クリスチャンであることによって、たとえ迫害にあうとしても、それは幸いなことなのだ聖書は教えています。

第一ペテロ 4:14～16「あなたがたはキリストの名のために非難されるなら、幸いです。栄光の霊、すなわち神の霊が、あな

たがたの上にとどまってくるからです…しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、決して恥じてはなりません。むしろ、キリスト者の名で呼ばれることで、神をあがめなさい。」

信仰による迫害を経験するとき、聖霊はその人の上にとどまります。だから、恥じることはなく、むしろ神様を大いにあがめるべきなのです。

#### 【火・倦怠感】

コロナ疲れという言葉が耳にすることがあります。常に緊張感を持っていかなければならないことは分かっていますが、それが長引くと、精神的に疲弊してしまうのです。迫害も同様です。迫害による緊張感が長く続くと、心も体も疲弊していき、信仰から離れてしまう恐れが生じます。

**ヘブル 3:12** 「兄弟たち、あなたがたのうちに、信仰のない悪い心を抱いて、生ける神から離れてしまう者がないように注意しなさい」

信仰の迫害だけでなく、信仰がマンネリ化してきたり、伝道してもなかなか成果があがらず燃え尽きてしまったりすることもあります。あの偉大なる預言者エリアでさえそうでした。カルメル山での激しい霊的戦いのあとに命を狙われるはめになり、仲間をおらず、疲れ切って信仰が弱くなり、「主よ、もう十分です。わたしの命を取ってください。わたしは先祖にまさる者ではありません」(列王記上 19:4) と主に祈ったほどでした。信仰生活は一生のことであり、短距離走ではなく、むしろマラソンを走るようなものです。時には休息も必要ですし、霊的力の回復が必要です。また互いに励ましあうことも大切です。ヘブライ人への手紙の中でも繰り返し、励まし合うことの大切さが教えられています。

**ヘブル 3:13** 「あなたがたのうちだれ一人、罪に惑わされてかたくなにならないように、「今日」という日のうちに、日々励まし合いなさい。」

**ヘブル 10:25** 「ある人たちの習慣に倣って集会を怠ったりせず、むしろ励まし合いましょう。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか」

教会の中でも常に互いに祈りあい、励まし合うことが大切です。

#### 【水・一致団結する】

カルメル山での戦いの後、極度の疲労の中にあつたエリアに神様がされたこと、それは食事をとらせ休息させることでした。**列王記上 19:5, 6** 「起きて食べよ。見ると、枕もとに焼き石で焼いたパン菓子と水の入った瓶があつたので、エリアはそのパン菓子を食べ、水を飲んで、また横になった。」

その後、主はホレブの山まで導いた後、突如こう尋ねられるのです。「エリアよ、ここで何をしているのか。」

エリアに自覚を促し、目覚めさせようとする言葉です。疲れたときは神様は優しく休息させてくださいます。しかし、休息した後はいつまでも休み続けて良いのではなく、再び使命をもって前に進んで行かなければならないのです。しかし、主はこのとき、エリアは一人ではない、仲間がいることを示されるのです。

**列王記上 19:18** 「しかし、わたしはイスラエルに七千人を残す。これは皆、バアルにひざまずかず、これに口づけしなかつた者である。」

列王記上 19:10 で、エリアは主に、「わたしは万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました。ところが、イスラエルの人々はあなたとの契約を捨て、祭壇を破壊し、預言者たちを剣にかけて殺したのです。わたし一人だけが残り、彼らはこのわたしの命をも奪おうとねらっています」と訴えます。エリアは一人ぼっちになってしまったかと思っていたようです。しかし、そうではなかったのです。バアルにひざまずかず、正しい信仰を持っている人たちが7千人もいたのです。彼らは主ご自身によって残されたものたち、いわゆる残りの民たちでした。エリアはどれほど励まされたことでしょうか。やがてエリアはエリシャを弟子としますが、エリシャはまさに、主が残された民の筆頭でした。今日も、神様は同じ信仰の仲間を残して下さっています。この信仰の仲間と一つとなり、霊的戦いに勝利し、天の都を目指していくのです。

#### 【木・終わりの時代】

ヘブル 1:2 「この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました」

ヘブル 10:37 「もう少しすると、来るべき方がおいでになる。遅れられることはない」

ヘブライ人への手紙は、終わりの時代に生きていることを私達に自覚させます。それゆえ、ヘブル 10:38 「わたしの正しい者は信仰によって生きる。もしひるむようなことがあればその者はわたしの心に適わない」と、厳しい言葉によって励ましているのです。かつてイスラエルの民は約束の地カナンを目の前にしながら、カナンの住民たちにひるみ、不信仰に陥り、その結果カナンの地に入ることができませんでした。これと同様のことが、終わりのとき、天のカナンを目の前にしても起こることでしょう。だからひるんではならないのです。そのためにどうしたら良いのでしょうか。それは、ヘブル 12:2にあるように、「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから、目を離さないように」することです。救い主イエス様は、ただ私達を救うだけでなく、私達の信仰を完成して下さる方でもあります。イエス様から目を離してしまえば、私達は何一つできないのです。